

三浦半島支部だより

平成23年3月26日発行
第11号

発行者: 社団法人宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部 企画・広報委員会
事務局: 鎌倉市津西 1-31-15 Tel: 0467-32-4957

支部長挨拶 古川 勝彦

(社)宮陵会 三浦半島支部長の古川(昭和40年経済卒)でございます。

当支部も、皆様の支えやご協力のおかげで、早いもので満5年目を迎えております。感謝の一言であります。

正月恒例の「箱根駅伝」は、支部担当地区の保土ヶ谷駅前に会員ほか支援の皆様が多数応援に参加いただきました。心より御礼を申し上げます。結果は、シード権確保には至りませんでした。練習と支援強化により、2～3年後には必ずや優勝争いからむとの決意が報告会で発表されました。大いに期待したいものです。

さて、昨年は日本の政治、経済、外交の閉塞感は解消されず、将来に不安を残す1年でした。思い出す言葉に、今から50年前、私が神大入学前の1961年1月20日、ジョン・F・ケネディが大統領就任式で演説した有名な言葉に「あなたの国家が、あなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが、あなたの国家のために何ができるかを問おうではないか。」、今まさに求められている言動ではないでしょうか。今年も、何としても納得のいく政治、自信に満ちた経済になってほしいものです。

支部発足以来、種々苦難を乗り越え、現在、支部の体制構築と活動の充実に取り組んでおりますが、まだまだ道半ばであります。基本姿勢は、皆様と力を合わせ、力を出し合い、地動な活動を重ねていきたいと考えております。

私見としては、今、卒業生の大部分が地元神奈川県に在住している現状を鑑み、「神奈川の地に母校の礎を強固に築き、母校とともに卒業生が各界で繋がり、輪を広げて協力・助け合わなければならない。」と、強く考えております。例えば、神奈川県在住の連合支部の立ち上げや、社会人として第一歩を踏み出す地域在住の卒業生に対する歓迎会の開催等により、地域支部との接点を設け、地区支部への入会と更なるネットワークの拡大を意識したいと考えております。

最後に、会員皆様をはじめ役員の方の支えに感謝しますとともに、引き続き皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願いいたします。

第87回東京箱根間往復大学駅伝競争

今年も箱根駅伝出場は厳しいのではないかとという前評判を見事に覆して出場し、がんばってくれました。皆さんそれぞれの箱根駅伝にける思いを特集いたしました。

神大の成績

◎予選会：平成22年10月16日(土) 9:00 対ト

陸上自衛隊川駐屯地スタート～国営昭和記念公園ゴール

9校の予選通過枠をかけて36校415名が、20Kmのコースで競った。

☆順位 8位(レース順位7位)

◎本戦：平成23年1月2日(日)・3日(月)

2年ぶり42回出場

往路成績(108.0Km) 順位 15位

復路成績(109.9Km) 順位 14位

総合成績：15位(11時間16分37秒)

トップとの差 16分46秒

シード校との差 3分14秒

<特記すべき成績>

<予選会> 415人中50位以内を記載

・27位：小杉新太郎(4年生)

・33位：天野 峻(4年生)

・40位：坪内武史(3年生)・42位：菅原貴行(4年生)

<本戦>

・5区：天野 峻(4年生) 4人抜き(19位⇒15位)

区間3位の走り

・7区：小堀佑真(3年生) 4人抜き(16位⇒12位)

区間5位の走り

三浦半島支部は、いつも通りJR保土ヶ谷駅から国道1号線を横浜方面に120mほど行った「円福寺前」信号そばで、往路2区坪内選手と復路9区菅原選手を応援しました。その後、有志が大手町のゴール地点まで繰り出し、熱心に応援した後、母校での箱根駅伝報告会に参加して選手達を激励しました。



JR保土ヶ谷駅周辺での熱心な応援風景（1月2日）

私は箱根駅伝をこう応援しました！

皆さんそれぞれの駅伝応援風景をご紹介します。また、宮陵会本部体育振興委員長からも原稿をいただき、筆舌に尽くしがたい応援もご紹介いたします。

鈴木 稔（昭和44年経済卒）

箱根駅伝の応援は、お正月の恒例行事になりましたが、2日の往路はテレビ観戦し、3日復路はテレビで二宮の定点ポイントでの順位を確認後、三浦半島支部会員がいつも応援している保土ヶ谷駅に向かい、熱心に応援した後、単独で東京大手町へ行きました。大手町は人の波で溢れ、私は常盤橋交差点で観戦いたしました。各校の選手が通過するたびに大歓声上がり、箱根駅伝の人気の高さが実感できました。やはり、1987年から日本テレビが全国完全生中継を開始してから箱根駅伝はお正月の風物詩として定着し、意外性のあるドラマが生まれるたびに人気が出てきたものと思います。

神大は、昨年のお正月の全日本大学駅伝（熱田神宮～伊勢神宮）の予選会で8位と沈み、このままでは箱根の予選会突破も無理かと思いましたが、4年生の主将小杉君と副将天野君がチームを引っ張り、8位で通過して全国の卒業生に夢と感動を与えてくれました。レース結果は、予想の17～19位を覆す総合15位の成績で、立派でした。

来年は、今回出場した10名のうち6名が残りますし、昨春から静岡藤枝明誠高校陸上部前監督の村松高雄氏とOBで実業団経験者の浅尾英氏が指導陣に加わり、さらに4月には5000m14分20～30秒台で走る高校生6名を含め14名が入部いたしますので、チームのモチベーションが高まるのではないかと期待しております。

神大駅伝チームの当面の目標は、全日本大学駅伝予選会突破ではないでしょうか。駅伝チームの益々のご活躍を祈念いたします。



矢澤基一（昭和44年経済卒）

箱根駅伝の応援と言えば、毎年2日と3日が年始日にあたるため、テレビでの応援をせざるを得ない。今年も2日朝から年始の準備をしながら観戦した。（3日も自宅や年始先でテレビを見ながらの応援であった。）

神大、日大、中大、早大のOBがそれぞれの母校を声を張り上げ応援した。往路東洋大柏原の3年連続の山登り1位の陰で、天野選手の区間3位の力走は復路に期待をもたせてくれた。

復路は7区で小堀選手が区間5位、総合12位とシート権がちらつき始めたが、10区アンカー福田選手の区間9位もむなしく、15位で終わってしまった。早大の18年ぶりの優勝と稀に見るシート権争いには感動したが、常連校の神大と専大や日大の不振は残念であった。

今回、テレビのデータ放送で地点毎の通過順位、個人の区間順位を瞬時に把握出来たが、区間最下位が2人ではシート権を取ることすら難しい。今回2区や9区でかなりの差がついてしまったが、各大学が有力選手の獲得や育成に力を入れ始めている中、今後の課題としてエースの育成を図り、選手には区間一ケタ台の走りを期待したい。ところで、1月25日（金）熱海の帰りに箱根へ回り、芦ノ湖畔にある箱根駅伝ミュージアムを見学してきた。神大の活躍の記録や展示してあった山下り6区の中澤選手のユニホームに感動を覚え、つい神大携帯スト

ラップを購入してしまった。

これからの神大陸上競技部の活躍に期待したい。

特別寄稿

手塚 正 宮陵会本部体育振興委員長
(昭和60年英語卒)

私の箱根駅伝の闘いは、立川の予選会の前日平成22年10月15日の夜から始まる。正確にいうと、その2～3週間前に神大を愛する多種多様な人達の集まりである「愛校会」（上は80歳から現役学生まで神大を愛する人達の集まり）のメンバーと応援体制のミーティングをすところから始まっているといえるだろう。15日の夜は、熱狂的な愛校心を持つ面々と立川で一献傾け、予選会突破を誓い合いホテルに宿泊した。16日の予選会当日は、早朝、西立川の昭和記念公園前に集合。稲木西多摩支部長率いる支部の皆さんと合流、間もなく大学をバスで出発した学生生活支援部・応援指導部・神大フェスタの面々も到着し、20分歩いてスタート地点の立川駐屯地で早速のぼりをてきぱきと準備。のぼりは目印になるよう事前に20本セットし、スタート後すぐに移動できるベストな位置を確保している。6年前、初めて応援に来て右往左往したときから比べると、隔世の感がある。これも昨年予選会で敗退し、今年は必ず復活してほしいという皆さんの強く熱い思いが、行動を起こした結果である。

予選会スタート！！校歌とともに応援し、すばやく5km地点へ移動。さらに野球部の現役諸君とフェスタの学生が先発隊として陣取っている、走者にとって最後の苦しい地点での応援と大忙し。最後はゴール地点へ移動した。ところで、各ポイントでのタイムや順位は、昨年わざわざ仙台から応援に駆けつけてくださった宮城支部の熊谷先輩が、自宅でテレビ観戦しながら随時携帯を通して情報を送ってくださる。5km、10kmと順調な報告が入ってきたが、給水所での混乱で1人転倒、2人遅れるとの悲痛な情報が入ってきた。一気に不安がよぎり言葉少なになるが、皆を鼓舞する。本当は自分で自分のスイッチを再度入れ直す心の声だったのかもしれない。ゴール後は、集会所である「みんなの広場」にそれぞれのポイントで応援していた仲間が続々と集まってくるが、皆浮かぬ顔をしている。毎年のことではあるが、みんなの広場で結果を待つ小一時間は、何とも言えないもどかしい時間である。いよいよ学連の役員から

発表。第8位での予選通過。自然と周りの皆と抱き合い、握手し合い喜びを爆発させる。この1年の思いが涙となって溢れ出し、どうしても止められなかった。

年が明けて平成23年元旦、この日は私の48回目の誕生日で年男。頭を丸めてシード権獲得に臨む自らの態勢を整える。夕方仙台から熊谷先輩が上京し、一緒に品川そばのビジネスホテルにチェックイン。必勝を祈願して軽く一献傾ける。

1月2日、いよいよ本戦。6時には東京大手町の応援指導部が陣取っているスタートポイントに向かい激励。ここで愛校会の方々も含め4名で応援集団を作り、自分の受持ち場である品川八ツ山橋に移動。ここは自宅に近いので毎年商店街を回り、馴染みのクリーニング屋・居酒屋・床屋・スナック等々に応援ガイドや神大スポーツを店頭で張ってもらったり、応援をお願いしている。今年いつもの皆さんに加え、そろいの法被（はっぴ）を着た「品川祭りの会」の人達も加わり1区小杉選手の名前を連呼する大声援！法被の若衆の威勢はすばらしい。続いて東神奈川へ移動する。東神奈川から横浜駅の約2kmは応援強化区間で、のぼりを重点的に並べてテレビへの露出効果を図る作戦。地元とあって神大応援の人達であふれかえっている。横浜駅までのぼりを確認しながら歩く。2区の坪内選手を応援後、テレビ観戦をしている仲間からのぼりが良く目立ったとの連絡が入り、してやったり！の心境。そして小田原に向け移動。小田原は三宮先輩の弁護士事務所が、小田原中継所直前で4区のランナーが最後の直線を全力で駆け抜ける絶好の応援ポイントにあり、今回から正式に動員をかけている。ラストパートに向け吉川選手を声の限りの声援し、5区はテレビで応援。箱根芦ノ湖のゴールを見届けた後、宿泊地へ向かう。

1月3日復路日、応援のスタートは三宮先輩の事務所から始まる。7区で小堀選手を応援後、横浜駅へ移動。車中で小堀選手が順位を12位まで上げ、シード権にあと一步との情報が入り、気合が入る。横浜駅から東神奈川までは徒歩でのぼりをチェックし、東神奈川で9区菅原選手を大声援した後、品川八ツ山橋で観客を巻き込んで盛大に10区福田選手コール。そして大手町の神大応援ポイントでフニッシュを迎えた。

今年の神大箱根駅伝は、4年生を中心に意識改革が進み、どうにか総合15位に踏みとどまった。シード権を取れ



1月3日 神大での選手報告会

なかった悔しさはあるが、価値ある15位であったと自分では総括している。来年は、今年築いた土台を基に1年間精進し、シード権を獲得するとともに、常勝神大の礎としてほしい限りである。我々も一段階上の応援体制を構築しなければならないと固く誓い合い、解散した。

平成23年新年会を開催

～講演会・懇親会～

平成23年新年会（第5回）が1月30日、京急横須賀中央駅そばのセントラルホテルで開かれ、女性も含め50数名が参加した。

新年会は今年も2部構成で、1部は横須賀市鶴が丘の三輪医院院長千場純氏が「良い死・悪い死・普通の死—知って得する老後の生き方」と題して1時間講演された。千場氏は、「いつ・どこで・どのようにして・どうして・だれに看取られ」など、死を取り巻く状況や医師として実際に携わった具体的な症例などを紹介され、また、最近増えている孤独死や自殺についても触れ、「満足して死ぬには、満足して生きること」の大切さを強調された。やがては「適齢期」を迎える聴講者は、講師の話聞き漏らすまいと熱心に耳を傾けていた。（講演内容は5頁「講演会要旨」をご覧ください）

続いて開かれた2部の懇親会は、冒頭で横須賀市平作出身の伊藤文保神大理事長が「大学は創立100周年に向かって質の向上にがんばっています。また、3号館の工事に着手し、工学部・理学部の再構築にも取り組んでいます。今年の箱根駅伝の成績は15位で、この壁がなかなか破れませんが、来年度は陸上競技の強豪校から有力選手が入学してくるので、2年位我慢すればシード校入りもできるのではと、期待しています。昨年の神宮大会では、硬式野球部が対早稲田大学との準決勝に出場、ス

ケート部の活躍、外国語学部学生の全国大会コンクールでの上位入賞など、文武両道でがんばっています。引き続き皆さんの応援をお願いします。」と挨拶された。乾杯の音頭をとっていただいた新井三夫宮陵会副会長は「札幌、徳島などの支部に何うと、三浦半島支部の活動が活発だが、何かかと聞かれる。その度に、半島支部に実際に行ってみてはと言っています。神大生は県内に就職するケースが多く、卒業生は本県が一番多い。できれば、こうした卒業生の一番多い県で県大会を開催したい。三浦半島支部が支部活動の範を示し、リーダーシップを発揮してほしい。」と、三浦半島支部への熱い期待を述べられた。

アトラクションに参加して会場を盛り上げてくれたのは、神大応援指導部準幹部・新人監督補佐の田原康裕さん（法律学科3年生）と美人ぞろいのかわいらしい4人のチアガールの皆さんでした。



参加者は60歳代が一番多く、70歳代も沢山参加していたせいか、声も大きく元気はつらつと演技する学生を眺める姿は、押しなべて「優しいお爺さんの目」だった。

本年は、田原さんらの本格派指導もあって校歌斉唱も例年より力強く、恒例の記念写真撮影も和気藹々と済ませ、無事に幕を下ろすことができた。

＜感想をお知らせください＞

新年会を実施するにあたり、日時・場所・講演内容の決定・通知・参加者把握・名簿作成・当日運営など、新年会担当幹事のリーダーシップのもと、幹事団は数回にわたる事前打合せを行い、準備を積み重ねてまいりました。皆さんの感想はいかがでしたでしょうか。ご意見や感想などがありましたら、お知らせください。次回皆さんとお会いできるのは、6月の総会です。準備が整い次第お知らせいたしますので、是非ご参加くださいますよう今からお願い申し上げます。



講演会要旨

◎千場講師プロフィール

昭和24年6月生まれ(61歳)、昭和43年神奈川県立湘南高校を卒業、昭和50年名古屋大学医学部卒業後、横浜市大医学部付属病院研修医、日本郵船委託医を皮切りに横浜市大第一内科・三浦市立病院内科・藤沢市立市民病院呼吸科専門医長・国立横須賀病院第一内科医長・聖ルカ会パシフィックホスピタル病院長等を歴任された後、三輪医院院長を就任、現在に至る。また、横須賀市医師会理事(地域保健担当)を始め他に3つの理事や評議委員、委員会委員の役職に就かれ、横浜市立大学非常勤講師(免疫制御内科学講座)も勤めている。お住まいは、葉山町木古庭。

<講演内容抜粋>

目を患った目医(メイ:名医)が、



「死」という皆さん共通のテーマでお話いたします。演題は、良い子・悪い子・普通の子のパクリですが、流れが良いので、このタイトルにさせていただきました。〈笑〉極力肩苦しくない話をいたします。

人間には4つの試練があります。「病」「老い」最後には「人の別れ」と「死」です。人間生まれると成長して老化していく。それが人生という言葉に置き換わるのですが、ものすごく単純に言えば誕生して往生するということです。その間は養生という言葉があります。

老化についてはいろいろな説がありますが、細胞分裂の時に「テロメア」というものがあり、それが短縮することによって老化もしくは死を迎えるという説が、今一番信頼されています。このテロメアが切れないですむような研究が、20年来アメリカでされていますが、この部分を操作することで、理論的には今の寿命をはるかに延ばせるということです。ショウジョウバエで実験しているというレポートがだいぶ前に出されましたが、それによるとハエの寿命を人間に直すと、300歳まで生きられるということだそうです。あと200年以上生きられるのですが、皆さん、うれしいですか?〈笑〉…

その間地球はどうなるのか、食べ物がなくなるのではとか、いろいろ心配ごとがある。皆さんも昔は細胞分裂で成長し、身長が伸び、体重が増え、知能が上がり、そして若さや美しさが輝いていた。今それがだんだん逆行してきている。

秦の始皇帝やシーザーなど世の権力者が、「長寿」を得ようとしているところでお金を使ったという話ですが、そうまでして手に入れようとした長寿が、まもなく手に入るかもしれません。

ただし、今のところ実際には寿命の壁が存在し、130歳位ではないかと言われていています。長寿でお祝いされる最高年齢は、今は110歳代ですが、近い将来には130歳位までいく可能性があります。

寿命の壁の原因ですが、1つは動脈硬化で2つ目は脳の萎縮です。血管と脳の寿命が、人間の生命もしくは社会生活を左右するのです。医療的にはこの2つをケアすることが大事ということになります。

病気とは生命の長さを保証しない、あるいは、生命の質を保証しません。人間は、生まれてすぐから死ぬ寸前まで、食って生きながらえて食えなくなったら死ぬのが当たり前でしたが、最近では、口から食べられなくても色々な方法で生きようと思えば生きられる時代になり

ました。寝たっきりで意識もない、ただ生かされているという現状があることを、皆さんも認識していただきたいと思います。

最近日本の人口は、減少に転じており、死亡者がどんどん増えています。2010年予測では1.27億人ですが、2047年には1.06億人と減ってきます。おそらく100年もすると、半分位になるのではないかと推計人口が出ています。横須賀でも自然減で毎年500人ずつ減っています。

1995年以降死亡原因の数でトップは、癌、次が心筋梗塞・心不全等の心疾患と脳卒中です。高齢化で心臓や血管が痛んできたということです。癌は男女とも増え続けていますが、胃癌と子宮癌は一時より減っています。今一番問題になっているのは、肺癌と乳癌です。幸いにも、癌は早期発見すれば大丈夫になってきました。昔は癌と言われると一生の終わりと考えましたが、今は癌だということを平気で言えるようになり、日常の話題に上るようになりました。これも結果が良いからで、直るといって確証が出てきたことは、非常に良いことだと思います。

日本では死を取り巻く状況が変わってきており、特に「超」が付く少子高齢化や核家族化から、今は独身高齢者世帯が増えています。また、気候変動という地球レベルの問題や医療制度改革という政策の問題が、結構身近なところに影響してきています。具体的には、病院に長く居られない時代がきて、病の半ばの人や重度障がい者が、家や施設で生活を余儀なくされているし、その中で「看取り」を迎えています。今、家で死ぬことが推奨されていますが、だから「長生き＝長寿」ではないということが、明らかになってきています。できるだけ本当の意味での長寿を目指すために、どうすれば良いのかということ、工夫しないといけない状況になってきています。

死ぬ理由は、簡単に言うと、「生」と「死」のバランスが崩れることで、年齢に関係なく、生きるエネルギーが減って死のエネルギーが増えるというバランスで死は成立します。バランスを崩さないようにしないと、突然、死が訪れることとなります。生きていくということは、非常に危ういものなということなのです。

死そのものは、いかんともしがたいものですから、良い死に方、悪い死に方、普通の死に方は、「自らが創る死の作り方」で決まるのではないかと考えています。死を5W1Hで想像してみますと、何歳で・どんな経過で・どんな病気で・どこで・どんな状況で・誰に看取られて

などが考えられますが、この内、自分で決められるものは何でしょうか？例えば、今高血圧で治療中の人は今後何年生きられるかは、だいたいの確率で推定できますが、確定はできません。よくポックリ死にたいと言う人がいますが、どこで？その時の状況は？……そこらが決められないからポックリは困る訳です。

そんな中、唯一選べるとしたら、「その時に傍にいてほしい人」ではないでしょうか。妻(夫)が良いと思えば最も安心かつ安全ですが…。

看取るのは誰かということですが、医者がいないと大変だと思われるかもしれませんが、しかし、看取りに医者はいらぬのです。なにしろ、亡くなるべくして亡くなる時には、医者はすることがあまりありません。亡くなった後に死亡診断者を書くだけです。あまり医者に拘ることはありません。そもそも死より怖いのは、「孤独と無視」という自分の死が無価値であるという認識のままに死ぬことでしょう。ですから、誰に看取られたいかを考えることは、非常に大切なことだと思います。

死は苦しいのか？死んでみないと分かりませんが笑、死ぬ直前に普通は意識を失うので、本当の瞬間は楽になっていると考えられます。どのような死であってもその瞬間に顔がスーッと安らいだ表情になります。当然ですがありとあらゆる力が抜けるわけです。そういう意味で、死の瞬間は、怖いものは何もありません。安心して死んでいただいても結構です笑が、それまでがいろいろ大変です。しかし、ここで覚えていてほしいのは、最後まで聴覚は残っているということです。周りで不用意な、いい加減なことを言っていると、皆、聞こえていたりします。時にそこから生き返る方もいますので、落語のネタにならないように…笑

もし看取りの機会がある方は、スキンシップを重視して苦痛を緩和してあげるようにお願いします。これが本当の手当てだと思います。

生と死は、昔からさまざまな人が語っていますし、これからも考えなければいけないと思う昨今ですが、簡単に言うと満足して死ぬためには、満足して生きる、一生懸命生きると良い死が来るといことになるのではないかと思います。死そのものには良いも悪いもありませんが、そこに至る道は千差万別で、皆さんそれぞれに与えられています。ですから、死にどのようにたどり着き、どのように向かって行くかという筋道は、その人がどう生きるかということなのです。つまり言い換えると、「死は生によって与えられる」ということです。生まれなければ死なないので。また、「生は死によって全う

される」、つまり、ずっと生きてそして死が来るわけです。その間にある自分の生の価値というものは、死の瞬間に、もしかしたら決定されるのかもしれませんが。だから、「私の人生は満足でした。」と言って死ぬ人は幸せです。ああもしたかった、これも残したかったと、心残りの多い人は不幸せではないでしょうか。

一体死というものは誰のものなのでしょう？また、最後の瞬間は誰によって決定されるのでしょうか？この答えはやはり「自分」なのです。「自分」によって決定されるのです。死は自らのものであるということです。そして結果として「良いか・悪いか・普通か」は、自分が生きている間に決めていくことではないでしょうか。確かに今から挽回できないものもあるかもしれませんが、今を生きるために何をしよう努力するかが大切だと思います。

四国（高知県）佐賀町の診療所に、今年90歳になる疋田善平さんというお医者さんがいらっしゃいます。2005年に横須賀市民協働シンポジウムに参加され、「人は3度死ぬ。1つは社会死、2つ目は生活死、そして最後に生物死である。」と言われました。また疋田医師は、「満足死」を提唱されているお医者さんで、書籍（「満足死寝たきりゼロの思想」講談社現代新書 奥野修司著）でも、満足死の概念と実際のあり方等が紹介されています。ようするに、満足死とは、三方「自分」・「家族」それを支えた「医療者・福祉関係者」の全てが満足するという事です。この満足死という言葉は、今日の話を集約するようなものですのでご紹介いたしました。ご清聴ありがとうございました。

特別寄稿

マレーシアでの闘病記 塚田 尚

昭和38年機械卒の塚田です。マレーシアに赴任して9年後の2000年に「心内膜炎」という命に関わる病気にかかりました。その闘病についてお話をさせていただきます。色々な病気のケースで、病名が確定しにくい場合があるとは思いますが、これからお話しする私のケースを参考にいただければ幸いです。

<心内膜炎という病気とは>

抜歯やけがの際に、血管から入った細菌（空気中にくらでもいる）が心臓弁膜に付着し、炎症を起こす。この炎症によって心臓弁膜に付着した異物が剥離して血液中に混入して全身に廻り、心筋梗塞や脳血栓他の症状を起こし、治療が適切に施されないと死に至るという恐ろしい病気です。

○発病から病名の確定、治療方法の設定まで

2000年5月のある土曜日の朝、目を覚ました時に倦怠感で当日ゴルフに行く気がそがれたことから始まりました。その後おおよそ10日間、37.2度位の微熱と倦怠感が続き、当初は自分では、単なる風邪ひきと考えていました。解熱剤を飲むと5時間ぐらいは36.5度の平熱に下がり、その後計ったように37.2度に戻ります。今まで見聞きしてきた経験から、結核か肝臓病を想定して現地の一流といわれる病院に行き、一通りの半日検査が終わって医者から「どこも悪くない。単なる風邪ですね。」と診断されました。しかし、10日間も微熱、倦怠感があるのに何も無いことは有得ない、何とか病気を探してほしいと食い下がり、2日間の入院で検査をしてもらうことになりました。内科・循環器科・泌尿器科・心臓内科の複数の医者が細部の検査をしてくれましたが、2日間で相変わらずこれという結果が得られませんでした。最後に心臓内科の美形で聡明なインド人女医が、「私は、一つの疑いを持っている。今夕から明朝にかけて37.8度以上の熱が出たら採血する。」というコメントがあり、その夜38度の体温が確認されたため女医に連絡が行き、病院に来て採血してくれました。そして、血液を培養した結果、「心内膜炎」という病名が判明いたしました。女医から「塚田さんの私達医師に接した気迫と執念が、この難しい病気の発見を導いた。」と、話してくれました。おおよそ3週間入院し、1回2時間、1日4回抗生物質を点滴するとの私にとって全く予想の出来ない驚きの病名と治療内容でした。マレーシアの現地法人会社の社長としての仕事はどうなるのが心配ですが、まずはこの治療をどこで受けるのかを決めることが第一です。従弟が東京の大学病院で心臓内科医長をしているので相談したところ、治療方法も日本と変わらないということで、日本に戻らず安心してマレーシアの病院で治療を受けるようにというアドバイスをもらいましたので、マレーシアで治療することにしました。

○マレーシアで入院治療生活

いよいよマレーシアでの本格的な治療の開始です。幸運にも日本の保険会社の計らいで、ツインベットで応接

間付の最高級の病室を充ててもらいました。点滴を繰り返し行うために腕の中央部に切り込み、その付近の静脈に点滴用の針をセットされました。1週間の抗生物質の投与で倦怠感と微熱が完全に取れ、正常な体調を感じられるようになりました。女医からは、点滴と点滴の間は自由にしても良い、外出もOKという許可が出ました。2週間目以降からは、毎日午後の点滴が終わる頃に会社の部課長に交代で病院に来てもらい、報告を受けたり、指示を出しながら社長としての職務をある程度全うすることができました。また外出も許可され、自分で車を運転して外食も楽しむこともできました。3週間経過後、退院の許可が出たため早速各種検査データをもらい従弟にデータを送り相談したところ、この検査データでは完治したと認められないので日本で入院し、追加治療を受けるよう進言されました。女医にその旨を伝えると、日本の医療の慎重さに驚いたようですが、日本で再入院するための紹介状を書いてくれました。保険会社に申請して帰国し、再入院することにしました。退院時、女医から病気発見までの私の粘り強さを褒められ、「もし最初に風邪ひきと言われてそのままにしていたら、あなたは今ここにいなかったでしょう、完治してよかったですね。」と言われました

○日本での再入院と検査治療

保険会社の計らいで日本への移動の始まりです。私はすでに病人ではないと思っておりましたが、マレーシアの病院の看護婦が、私が日本の病院に入院する際に引継ぎをするということで同行し、まず救急車で空港へ、車椅子で飛行機に搭乗させられ、成田到着後、同様に救急車で従弟の病院に搬送されました。それからなんと5日間も集中治療室で過ごすことになりました。そして従弟から、1ヶ月の入院治療を言い渡されたとき、「マレーシアで完治と退院を許可され、念のために追加入院をしたのに、これからさらに1か月入院とはどういうことか？冗談は言わないでくれ！仕事が大事なので検査が終わったら、すぐ返してもらいたい。」と、抗議しましたが、「仕事と命とどちらが大事なの？」というやり取りがあり、結局20日間入院しました。入院中の治療はマレーシアと同様でしたが、病院での生活はマレーシアとはまったく違い、病人扱いです。勿論外出は許可されませんでした。発症原因の調査（種々の聞き込み、過去の怪我の有無、歯科医による口腔検査、細菌感染の有無ほか）が行われましたが、最後まで原因解明はできませんでした。結局、細菌による一過性の病気で後遺症や再発はないということでしたので安心しました。

○今回の入院治療後の感想

- ・自分の体調が異常と感じた時には、医者に異常なしと言われても、自分が納得できるまで体の異常をアピールすることの必要性を強く感じました。
- ・マレーシアで完治、退院を許可されたのに何故日本で20日間も入院が必要なのかですが、従弟と女医の完治を判定するレベルの数値に差があったためでした。これは、担当する医者の判断の違いであり、はっきりと線引きできることではないと納得いたしました。

大学の近況報告 清水 英樹

昭和56年法律卒の神大職員です。日頃はあまり表に出ない「2010年課外活動団体の成績」と大学の近況等をお知らせいたします。

2010年課外活動団体(クラブ)の主な成績

- アメリカンフットボール部：関東大学アメリカンフットボール秋季リーグ戦1部Aブロック5位
- 合気道部：第48回全日本合気道演武大会学生連盟演武出場
- 應援指導部：第22回全日本学生チアリーディング選手権大会決勝出場
- 弓道部：神奈川県学生弓道連盟男子春季Ⅱ部リーグ戦団体戦3位（1部昇格）
- 剣道部：第55回春季神奈川県学生剣道選手権大会男子団体戦3位、第29回全日本女子学生剣道優勝大会団体戦ベスト16
- 硬式野球部：第41回明治神宮野球大会ベスト4
- サッカー部：第84回関東大学サッカーリーグ戦1部8位
- 女子サッカー部：第19回全日本大学女子サッカー選手権大会出場
- 準硬式野球部：第42回全日本大学選抜準硬式野球大会出場
- 水泳部：第86回日本選手権水泳競技大会1500m自由形・50m平泳ぎ出場、200m背泳ぎ6位
- スケート部（アイスホッケー部門）第83回日本学生氷上競技選手権大会出場
- スケート部（スピード部門）：ワールドカップショートトラックスピードスケートモントリオール大会・ケベック大会・アジア長春大会・上海大会個人出場、第2回ユニバーシアード大会3名出場決定
- テコンドー部：第21回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会無差別級男女出場
- トライアスロン部：第6回太平洋トライアスロンinいわき個人優勝（国体出場決定）
- 軟式庭球部：関東学生ソフト

テニス秋季リーグ戦男子4部優勝 ■軟式野球部：第33回全日本学生軟式野球選手権大会準優勝 ■平塚軟式野球部：第33回全日本学生軟式野球選手権大会出場 ■男子バスケットボール部：第86回関東大学バスケットボールリーグ戦2部4位 ■女子バスケットボール部：第60回関東大学女子バスケットボールリーグ戦2部14位 ■バドミントン部：関東大学バドミントン秋季リーグ戦2部男子4位、女子6位 ■バレーボール部：第63回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会トーナメント出場 ■女子バレーボール部：秋季関東大学バレーボールリーグ戦4部優勝 ■ボテビル部：第45回全日本学生連盟ボテビル大会個人総合5位、脚の部個人優勝 ■男子ラクロス部：第23回関東学生ラクロスリーグ戦2部Bブロック優勝 ■レスリング部：JOC杯全日本ジュニアレスリング選手権大会フリースタイル66kg級個人準優勝、天皇杯全日本レスリング選手権大会4名出場・ベスト8（3名） ■自動車工学研究部：全日本学生ジムカーナ選手権大会出場 ■吹奏楽部：第58回全日本吹奏楽コンクール金賞受賞

H22年度退職教員最終講義開催される

3月末日をもって退職される教授方の最終講義が、1月～3月中旬にかけて開催されました。講義者は、経済学部：沢田幸治教授、経営学部：松岡紀雄教授、小松幸円教授、外国語学部：福田アジオ教授、理学部：羽鳥尹承教授、森和亮教授、工学部：堀野定雄准教授、北岡正敏教授です。長い間ご指導していただきましてありがとうございました。

引き続き「AA/安定的」の格付けを取得

神大は1月14日に㈱日本格付研究所から昨年に引き続き、長期優先債務の格付「AA」を取得し、また、格付の見直しは「安定的」とされました。ちなみに、「AA」は20段階に区分している格付順位の上から3番目です。

テクニカルショウヨコハマ2011に出展

産官学連携事業テクニカルショウヨコハマ2011が2月2日から3日間パシフィコ横浜で開催されました。神大からは、理学部山口和夫教授による「感光性シランカップリング剤を用いたケージド細胞培養基板」と工学研究所久保登客員研究員による「法人タクシー車両に搭載したドライブレコーダーにおける記録データを事故

予防に役立てるための基礎的技術」が出展されました。

鈴木選手 水戸ホーリーホック(J2)入団発表

1月13日横浜キャンパスで、体育会サッカー部所属の鈴木将也（すずきまさや）選手の水戸ホーリーホック（J2）入団発表が行われました。鈴木選手はMFとして関東大学サッカー1部リーグで活躍。その運動量の豊富さと非凡なパスセンスを武器にJリーグでの活躍を目指します。ご声援のほどお願いいたします。

■プロフィール

1988.5.9 生まれ（22歳）人間科学部人間科学科4年
神奈川県逗葉高校サッカー部出身

ポジション：ミッドフィルダー、身長：177cm、体重：72kg



<わが支部の紹介>

兵庫県支部の紹介 吉村蒔子

兵庫県支部の吉村（昭和40年応用化学卒）です。兵庫県支部の紹介をさせていただきます。

兵庫県は、日本の縮図と言われておりますように、北は日本海、南は淡路島を含めた瀬戸内海に面した全てに恵まれた環境にあります。その中で当支部発足の歴史は古く、終戦後間もなく先輩有志の方々の尽力により、立ち上げられました。紆余曲折を経て、会が組織化され総会を年1回開催し始めたのは、その後のことです。そして、本年59回目を開催する予定です。

現在、約630名の会員が在籍しておりますが、当支部も他支部の例に漏れず、時代の波に翻弄され、支部運営に悪戦苦闘しております。

年間を通しての支部の活動は、①年数回の役員会と②年1回の支部総会、さらに③年1回、会報「子午線だより」を発行しております。また、④有志によるゴルフコンペを年数回行っております。そして、会員が少しでも

大学や宮陵会と接する機会を持ってもらうために、⑤阪神間で母校が出場するスポーツの試合の際には、応援可能な地域の会員に案内状を送付しております。

総会は、遠方から出席し難い会員のために、新年会の形で東西南北の地を交替で開催しており、本年は東部の宝塚市、昨年は西部の姫路市で開催いたしました。

会報は、総会出席者と年会費(2,000円)納入者に送付しております。

当支部の最大の課題は、ほとんど反応のない平成の卒業生を如何にして同窓会に関心を向けてもらうかです。今、県下での多方面な話題に触れたホームページを開設し、広報活動を強化する予定です。

当支部では女性会員の活動が活発で、総会には常に5~6名が出席し、会に花を添えてくれています。

私といたしましては、今後も暗中模索しながら、母校・宮陵会そして支部発展のため、微力ながらお役に立ちたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

蓮寺(しょうれんじ)」のすぐそばで、中高年の歩こう会でもよく利用されるコースに面しています。お勧めのウォーキングコースも案内してさせていただきます。皆様の来店をお待ちしているとのことですので、どうかよろしくお願いいたします。 営業時間:10:00~19:00(外出時あり)

定休日:日曜・祝日

住所:鎌倉市手広2-32-6

電話:0467-32-9386

支部同好会通信 (世話人が紹介します)

<紹介コーナー>

わが社・わが店・わが商品

「バイクショップ ファイン・ロード」

井口 淳 (昭和62年機械卒)

古川支部長が、バイク屋さんを紹介いたします。

井口(いのぐち)さんのお店は、西鎌倉で平成5年にスタートし、平成12年に現在の鎌倉市手広に移転して今年5月で18周年を迎えるバイク屋さんです。

開店当初は、国産の中型・大型バイクをメインに、お客様とツーリングやレースなどにも参加し、バイク趣味の方々に支持されるお店を目指していましたが、時とともに状況やお客様のニーズも変化し、今では実用性を重視した原付・小型バイクの顧客中心という180度違う展開になっております。お店の特徴は、「秘密基地のような分りにくい場所にある。」「販売より修理がメインのため、新車が1台も並んでいない。」など、普通に考えるとかなり个性的なお店です。このように一風変わったお店ですが、冷やかしか歓迎ですので、バイクに興味のある人やない人もぜひ立ち寄って声をかけてみてください。場所は、「鎖大師(くさりたいし)」で有名な「青

●ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス:nakaroku@jcom.home.ne.jp

3月11日、葉山国際カンツリー倶楽部で第14回宮陵会三浦半島支部オープンゴルフコンペが行われました。天候は晴れで、新井・秋田・武笠宮陵会副会長など4組16名が参加して、エメラルドコースアウト9時22分にスタートしました。午後2時45分ごろ地震でティーフランドは大きく揺れましたが、状況を確認してプレーを続行しました。難しいピン位置に参加者はパットでスコアを落とす中、実力でスコアをまとめた塚田氏が4回目となる優勝を果たしました。準優勝は2回目のベスグロとなった有川氏、三位は奥野氏。ドラコンは鈴木和夫・手塚氏、ニアピンは新井・武笠氏でした。次回は7月に葉山国際で開催する予定です。どなたでも参加できますので、お友達をお誘いのうえ是非ご参加ください。お待ちしております。



3月11日葉山国際カンツリー倶楽部にて

●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com

テニス同好会は、最も頻繁に行っている同好会で、これまで25回の実績があります。特に昨年の夏は、神大の富士見高原研修所付属のコート(北京オリンピック同一仕様)で合宿、年末には箱根町宮宮城野コートで外気温摂氏1度のなか風にも負けずにゲームを楽しんできました。開催日時は、原則として毎月第3月曜日の11時から16時、場所は茅ヶ崎の湘南ローンテニスクラブ(食堂、シャワーあり)、会費は1回2,000円です。初心者にはテニスシューズのみ準備し、ラケットは無料で貸してくれます。支部会員のご家族や初心者大歓迎ですので、気楽に声をかけていただき、ご参加ください。



夏期合宿 神大富士見高原研修所にて

●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス:

w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp

平成23年度の「歩こう会」は、春と秋の季節の良い時期に2~3回実施する予定でいます。場所は、当面三浦半島の主な景勝地・神社仏閣・自然探訪等を中心に、老若男女が手軽に参加することができるようにいたしますので、ご参加をお待ちしております。ちなみに昨年は、春:浄明寺~前田橋~大楠山~衣笠公園花見、秋:京急長沢~三浦富士~砲台山~武山~津久井浜みかん

狩りを行いました。なお、猿島~観音崎散策を企画いたしましたが、雨天で中止になりました。

今年は5月中旬に逗子の披露山~蘆花公園~森戸川源流~長柄方面を散策する予定であります。詳細につきましては、決まり次第支部HPほかでご案内いたします。



武山ハイキング・みかん狩の一コマ

●つり会世話人:清水英樹(昭和56年法律卒)

メールアドレス: Shimih01@kanagawa-u.ac.jp

つり会では、第2回釣り大会を昨年9月17日(金)に実施いたしました。釣果は束釣りとは行きませんが、お土産には十分でした。第3回は暖かくなってから実施したいと考えております。ホームページでお知らせいたしますので、皆さん奮ってご参加ください。朝早くて足がないという方は、車で迎えに行くことも考えますので、是非ご検討ください。

私は月1回のペースで鯛釣りを中心に釣行していますが、今年の正月は1.5kgを2匹釣ることができました。一度挑戦してみたい方も、声をおかけください。

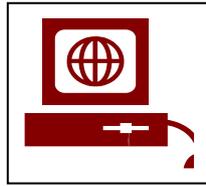


久里浜黒川本家の釣り船にて

支部HP(ホームページ)の実績とお願い

<http://miurahanto.blog.shinobi.jp> 塩塚定雄

支部広報のお手伝いをしています
塩塚(昭和 48 年貿易卒)です。



支部ホームページ開設から 3 年、
現在のアクセス件数は 1850 件余り
(1 日平均 2 件程)です。

ご覧になっているかと思いますが、葉山にお住ま
いの小池邦夫(副支部長)さんから、四季折々に、「切
り絵に俳句」が添えられたお便りや横須賀の内藤正
久(副支部長)さんから「野鳥の写真」が届きます
ので、掲載させていただいております。皆様も、趣
味等のお便りをお寄せいただき、会員にいろいろご
披露してみてもはいかがでしょうか。

お便りは、HP 上の『ご連絡』のメールフォームを
ご利用になり、お寄せください。今後、さらにご利
用が増えますようお願いしております。

事務局からのお知らせ

新会員のご紹介 (敬称略)

- 嶋田順子(昭和 47 年第Ⅱ短商卒)横須賀市追浜東町
嶋田晃氏夫人
- 西脇幸二(昭和 53 年第Ⅱ貿易卒)横須賀市鴨居

お悔やみ

- 森 茂 様(昭和 32 年第Ⅱ経済卒)
平成 22 年 9 月 25 日死去(83 歳)
ご自宅:横須賀市馬堀海岸
川崎南税務署管内納税組合副会長・税理士
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成23年度 代議員会・総会のご案内

- 代議員会 平成 23 年 5 月 21 日(土)午後開催予定
横浜キャンパス 16 号館 セレストホール
- 通常総会 代議員会終了後 同場所

～編集後記～

第 11 号の支部だよりは、皆様からいただいた原稿に力作が多く、うれしい悲鳴でした。今
後もどんどん原稿をお寄せいただき、充実した
支部だよりを作っていきたいと思っております。ご協
力のほどお願いいたします。

3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震
で被災された方々、さらに福島原発に係る事故
で避難を余儀なくされている方々に、心よりお
見舞い申し上げます。(N)

会費納入のお願い

年会費の振込をお願いいたします。該当者には郵便
の「払込取扱票」を同封いたしました。振替手数料は支
部で負担いたします。

◎郵便振替受入口座:00290-5-95815

宮陵会三浦半島支部

◎横浜銀行口座:久里浜支店 普通預金 1747984

宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部

●会費は年間 3 千円、4 年間前納は 1 万円です。

支部年会費納入状況

〔平成23年3月末まで納入済〕 (敬称略)

(鎌倉)小永井 潔	篠田 拓郎	川瀬 元夫
矢澤 基一、	山岸 一輔	
(逗子)千葉 毅一、	長澤 良成	
(葉山)中村 進、	中川 六郎	

(横須賀)森 茂、	鈴木 昭利、	萩原 孝
沖 丞、	南雲 忠男、	角谷 彰
石渡 敏夫、	大倉 国光、	浅山 正義
市川 国男、	寺脇 敏彦、	清水 洋一
吉田 武男、	金野 義勝、	島崎 和久
伊澤 隆雄、	鳥海 洋義、	青山 隆一
松岡 和行、	鈴木 康介、	鈴木 三郎

〔平成24年3月末まで納入済〕

(鎌倉)井口 淳	(逗子)石渡 浩
----------	----------

